

私の父は蔵王鉱山野球部のコーチ・監督だった。
小学校にも入らぬ幼少の頃、親父に連れられて蔵王鉱山野球場へ。
仙人沢の赤い橋を渡り蔵王寮へ。当時の写真をいただき仏壇へ供えた。
母は涙ぐんでおりました……。
――(株)ヤマコー平井社長さん思い出を語る。――



名代平次観光課長は「市が計画している第七次振興計画の先駆けでもあり、地方創生に大きな役割を果たすので頑張ってください」と奨励。次いで平井社長さんは、幼少の頃の思い出を語られた後「坊平と猿倉、とくに歴史資料館建設地は、蔵王温泉との要の地域であり、力を合わせて蔵王観光の振興に盡

したい」と、のべられた。で来賓の紹介のあと、川口専務理事より六十年前、蔵王にオリンピック招致のため中丸山付近の調査にあたっておられたイギリスのクラークさん、上山市の阿部虎次さん、視界ゼロの猛吹雪で命を落とされた阿部さんのご長男阿部和夫さん



盛大だった祝賀会
当時では珍しかった８ミリカメラで蔵王鉱山を撮りまくった長谷部静雄さんの55年前の映像が流れ、元山の間山さん力作の「ジオラマ」が展示されるなど緊張した雰囲気

のなかで川口専務理事の司会で祝賀会は開会された。佐藤竹志副理事長の開会のあいさつ。会を代表して川口理事長のあいさつ。そして専務理事から配布資料にもとづいてこの二年間の取り組みについて報告があった。ご来賓の祝辞として

上山市長のご挨拶として「足湯で中国人の観光客が騒いでいる。注意をしてその場は解決したが猿倉にきたら、その中国人が遊んでいたのでビックリした」と笑わせながら乾杯。次いで評判の「大曾根餅つき保存会」の皆さんによるもちつき。納豆・あんこ・きな粉。ウマイー！しばらく

静まる会場。乾杯は、五十嵐上山市観光物産協会会長さん「足湯で中国人の観光客が騒いでいる。注意をしてその場は解決したが猿倉にきたら、その中国人が遊んでいたのでビックリした」と笑わせながら乾杯。次いで評判の「大曾根餅つき保存会」の皆さんによるもちつき。納豆・あんこ・きな粉。ウマイー！しばらく

静まる会場。乾杯は、五十嵐上山市観光物産協会会長さん「足湯で中国人の観光客が騒いでいる。注意をしてその場は解決したが猿倉にきたら、その中国人が遊んでいたのでビックリした」と笑わせながら乾杯。次いで評判の「大曾根餅つき保存会」の皆さんによるもちつき。納豆・あんこ・きな粉。ウマイー！しばらく

静まる会場。乾杯は、五十嵐上山市観光物産協会会長さん「足湯で中国人の観光客が騒いでいる。注意をしてその場は解決したが猿倉にきたら、その中国人が遊んでいたのでビックリした」と笑わせながら乾杯。次いで評判の「大曾根餅つき保存会」の皆さんによるもちつき。納豆・あんこ・きな粉。ウマイー！しばらく

静まる会場。乾杯は、五十嵐上山市観光物産協会会長さん「足湯で中国人の観光客が騒いでいる。注意をしてその場は解決したが猿倉にきたら、その中国人が遊んでいたのでビックリした」と笑わせながら乾杯。次いで評判の「大曾根餅つき保存会」の皆さんによるもちつき。納豆・あんこ・きな粉。ウマイー！しばらく

= 山神社・神事 =

- 毎年 5 月 15 日、山神社に集まり
鉱山の歴史を語り合い、
一年の決意を新たにすする山神社祭、
司会担当の原田正男です……
- ◇開会のことば（八戸製錬・村山利夫さん）
◇神事祝詞（芳賀宮司）
◇玉串奉典
（1）氏子会代表 川口兼次さん
（2）日東金属鉱山㈱ 代表 熊谷忍さん・間山昭さん
（3）NPO 法人蔵王鉱山の歴史を語り継ぐ会 副理事長 土屋健一さん

- （4）山形県観光物産協会会長 平井康博様
（5）友好団体永松鉱山永松の会 会長 奥山和夫様
（6）来賓を代表して上山市観光物産協会 会長 五十嵐伸一郎様
（7）元山探鉱所代表 佐藤京一さん
（8）製錬所代表 山川庄助さん
（9）索道関係代表 斎藤善吉さん
（10）蔵王鉱山労働組合代表 川口尚也さん
（11）蔵王鉱山主婦の会代表 山口千恵子さん
（12）遺族を代表して 結城昌夫さん

- （13）中川第二小学校卒業生 代表 中川善博さん
◇献杯、閉会のことば（丹野啓さん）
「はからずも親父が奉納した献旗を目の前にして緊張しておりますが、五月晴れの晴天に恵まれ、山神社祭の神事を閉式いたします。」



募 集 要 項

平成 28 年 5 月 23 日開催されました第 1 回役員会において、会員募集の要項が次の通り確認されましたので、公示いたします。

- 1、募集金額
入会金（初年度のみ） 5,000 円
正会員年会費 10,000 円
- 2、募集期間
平成 28 年 6 月 1 日より同年 9 月 30 日末までの 4 ヶ月間
- 3、入会の方法
同封するゆうちょ銀行払い込み用紙を使用するほか「入会申込書」に必要事項を記入して返送してほしい
- 4、特 典
その（1）機関紙「硫黄」に氏名を掲載し謝意を表すると共に「蔵王鉱山歴史資料館」に掲示する
その（2）感謝への意を表するため鉱山時代から賞味されてきたジンギスカンを「猿倉ジンギスカン」として宅配する
その（3）機関紙「硫黄」を毎回送付し、会員相互のコミュニケーションをはかつていく

以上の通りであります。みんなのふる里、よみがえる蔵王鉱山のためによりしくお願い致します

—— 私たちが責任をもって執行します。 ——

NPO 法人蔵王鉱山の歴史を語り継ぐ会 役 員 名 簿

【顧問】	
村山 司	（蔵王鉱山 山神社氏子総代）
阿部 實	（元上山市長 元山変電所勤務 阿部良助氏のご長男）
薦谷 栄三	（元上山市教育委員会教育長 中川第二小学校教諭）
金森 昌江	（「私と蔵王鉱山」の作者 中川第二小学校教諭）
【相談役】	
阿部 大輔	（元山形県鉱政主幹）
熊谷 忍	（元蔵王鉱山地質技術者）
間山 昭	（元蔵王鉱山探鉱技術者）
【理事長】	
川口 兼次	（日東商事㈱代表取締役会長、元蔵王鉱山坑内勤務者）
【副理事長】	
佐藤 竹志	（中川第二小学校 昭和 34 年卒）
土屋 健一	（中川第二小学校 昭和 31 年卒）
【専務理事】	
川口 豊	（日東商事㈱代表取締役社長）
【理 事】	
高橋 正之	（中川第二小学校 昭和 34 年卒）
桑原久仁美	（中川第二小学校 昭和 34 年卒）
佐東 弘子	（中川第二小学校 昭和 34 年卒）
原田 正男	（中川第二小学校 昭和 35 年卒）
土田 貞男	（中川第二小学校 昭和 36 年卒）
丹野 啓	（中川第二小学校 昭和 37 年卒）
中川 善博	（中川第二小学校 昭和 40 年卒）
鈴木 敏和	（中川第二小学校 昭和 38 年中川小へ転校）
結城 昌夫	（中川第二小学校 昭和 42 年卒）
【監 事】	
内海 清人	（内海税理士事務所）
長谷部佳明	（中川第二小学校 昭和 37 年卒）
小川美代子	（中川第二小学校 昭和 34 年卒）

ストストと春が来て、カンパと秋が来る。労組時代、資本の側から「擲揄」されたことを思い出す。
法人化の設立登記も終わり、蔵王鉱山歴史資料館建設に向けてスタートを切ったばかりであり、いまさら引く訳には行かない。

閉山されてから五十五年。いくばくかの退職金を懐に蔵王を降りた。住むところを探し、職を求めた。職安は蔵王鉱山の離職者であふれていた。社宅が解体され、索道や

もう一度カンパを まずは「会員」になつてほしい

理事長 川口 兼次

しい労働環境。この五十五年を振り返るとき、私たちの先輩やご両親のご苦労が察せられてくる。「よみがえる蔵王鉱山」への取り組みは「恩返し」の意味も



山形県スキー連盟公認蔵王猿倉スラローム大会 (28.3.5)
川口大会会長に対し蔵王一中の大宮康太郎選手の選手宣誓 (この大会で大宮選手は逆転優勝した)

ある。特定の人々が「大金」を出して建設した「蔵王鉱山歴史資料館」では意味がない。鉱山に縁のあったわたくしたちが中心となり、歴史を大事にする方々に呼びかけて建設するところに「価値」がある。定款によれば入会金五〇〇〇円と「年会費」一万円とある。まずは「会員」になってほしい。そして建設資金四千万円の寄付活動に参加してほしい。わたくしは十八才で蔵王鉱山に採用され、坑内労働者として働

働き川口一族を支えてくれた。蔵王鉱山ありがとうである。蔵王鉱山歴史資料館が建設されれば、展示されている資料について「語り部」として常駐し、シャベリつづけたい。

- ◇五月十五日 山神社祭
閉山五十五周年 シオラマ奉納
◇五月二十三日 第一回役員会開催 会費等の募集要項を決める
◇四月二十七日 NPO 法人の設立について上山市長より認証をうける
◇五月六日 NPO 法人登記完了 「法人」となる
◇五月八日 山神社への階段周囲の清掃及び屋根補修
◇四月十三日 池周辺の整備に伴い隣地土地所有者（千葉市）と境界について立会い 二名来場
◇四月二十二日 蔵王エコーライン開通式 マイクロバスで参加
◇四月九日 ひじおり温泉で永松鉱山「永松の会」総会 川口理事長出席

◇四月五日 桑原理事が経営する「じんや」で役員会 山神社祭の要項を決める
◇四月十三日 池周辺の整備に伴い隣地土地所有者（千葉市）と境界について立会い 二名来場
◇四月二十二日 蔵王エコーライン開通式 マイクロバスで参加
◇四月九日 ひじおり温泉で永松鉱山「永松の会」総会 川口理事長出席

おもて出来事

業務日誌から

スポーツ万能・閉山後は 高校教諭

元山の斎藤 宏さんの巻

――閉山のときは――
斎藤「社宅は猿倉。二階建の職員アパートから一棟二戸建の社宅に移ったばかりだった」
――坑内火災で索道は止まっていたのか――
斎藤「救援物資や生活用品が必要だったので運転はしていた」
――蔵王鉱山から降りたのは――
斎藤「閉山が決まった昭和三十八年三月、就職について母校の恩師に相談した。そのときはじめて「県立寒河江工業高校」が開校することを知り応募した」
――当時は、職探してどんな苦労した。斎藤さんは運がよかった――
斎藤「いや、教員免許がなかったのが最初は「助手」扱いだった。猛勉強をして資格をとり定年まで勤めた」
数多く飾られている表彰状や感謝状、そのなかに、全日本スキー連盟公認の二級合格証があった。検定会

場は蔵王猿倉スキー場。主任検定員は川口周一。平成十四年二月とあった。村山地区高体連スキー専門部の役員でもあった。
――スキーの高校新人戦では、猿倉を利用していただき現在もつづいている――
斎藤「ベテランスキー大会にも、川口尚也さん、村山利夫さんと出場したこともあり、縁が濃くなっている」



――スキーのほか、野球・テニス・バレー・なんでもできるスポーツマンという印象がある――

斎藤「好きだったし、鉱山での娯楽といえばスポーツだったから」
奥さんとご長男夫妻の四人暮らし
奥さん「ところで川口さん何者ですか」
――お宅の旦那と同じ昭和

役員紹介

副理事長 佐藤竹志さん

戦後間もなく結成された蔵王鉱山労働組合の二代目委員長でもあり、PTA会長でもあった佐藤竹志さんのご長男。索道修理のベテラン佐藤四郎氏は叔父にあたる。

中川第二小学校から中川を卒業し山形労働基準局を卒業し山形労働基準局



に一級を取得し、現在は孫さんへの指導に専念。その指導ぶりは評判がいい。
(中川二小三十四年度卒)

ふるさとにUターン

理事 原田 正男

その2
(前回のつづき)

蔵王鉱山で育った子供のころ猿倉にあった池での魚釣り、春と秋は、わらびやあけび等の山菜とり、夏は仙人沢での川遊び、冬は猿倉山でのスキー遊びなどが忘れられず、しかも夏休みで帰省した時は必ず坊平や猿倉にドライブに行き、澄みきった青空の下、森林浴を楽しみながら、本当にここが俺の故郷だと思い、蔵王猿倉の山にくるたびに子供のころを思い出し、いまも。平成二十二年に念願であった故郷上山移住が決まり警察の忙しい仕事から解放され、もう定職につかずのんびり好きなことをやってのんびり過ごす。
――移住したのですが、移住二年目に川口会長から「何もしてないなら猿倉スキー場にこないか」と誘われ、蔵王鉱山の為なら少しでも役に立てればと思い、索道



(記録的な雪不足の中で開催されたベテランスキー大会、チーム蔵王鉱山として男子第2部に出場)

道係として五年目に入りました。スキー場の仕事は警察の仕事と違って、時間がくれば定時に終わることです。ただ弱点は寒さに弱いことですが、引き受けた以上は弱音をはかない、愚痴を言わないことを念頭にやっております。埼玉から四十三年前に上山に移住して六年目になりますが、中学の同級生や蔵王鉱山の仲間と会って話をしているうちに、残念に思ってたことは、蔵王鉱山で生まれ育ったことを隠したり、話をしながらない人がいると言ったことです。私は「蔵王鉱山ありがとう」と大声で叫びたい。なぜなら、戦後のまもない貧困時代に、少なくとも衣食住について、何も苦労することなく楽しく過ごせたのは蔵王鉱山があったからじゃないでしょうか。大人になってからも楽に自由な生活できたのは蔵王鉱山の

蔵王通信

年内に根雪にならないと雪解けが早い。昔の人の言い伝え通り今年の雪解けは早かった。自慢の北斜面ですら三月十日に閉鎖した。

「友子制度」とは、地の底で坑夫として生きていくためには、義理と人情を生かした「相互扶助」の組織が必要であった。親分と子分。取り立て免許状をもって全国の鉱山を渡り歩いた。戦後の労働組合の結成によって「友子制度」は解消した。

パソコン。84才の挑戦。苦勞して90%できあがった文章、いつの間にか消える。頭にくる。「保存」ウソ。小学校からイキナリ大学へ入ったようなもの。しかし、あきらめる訳には行かない「硫酸」のためにも。

昭和二十二年、早川一郎氏(上山市仙石出身)の手によって、蔵王鉱山労働組合が結成された。(次回へつづく)

索道へ切り換えることを会社に提案し、完成させた。戦前の昭和十三年の頃だった。

昭和二十二年、早川一郎氏(上山市仙石出身)の手によって、蔵王鉱山労働組合が結成された。(次回へつづく)

蔵王鉱山の歴史を語り継ぐ会
理事長 川口兼次

我が社長 藤山 愛一郎

大日本精糖、日東化学工業、日本金銭登録機、日本コロンビア、蔵王鉱業などの取締役社長のほか、日本商工会議所会頭、経済同友会幹事などを歴任、日本を代表する実業家でもあった。
このため、新規採用時には全国からエリートが応募し、すぐれた人材が採用された。
当会の相談役である熊谷忍さん(新潟大学)、問山昭さん(秋田大学)なども、その時代に採用された。

蔵王鉱山は誰のもの

その二 戦後の下サクサ時代

昭和二十一年四月、索道注油係として採用され斎藤善吉さん(上山市弁天地区に在住)。製錬場の従業員は五・六十名程度とか(山神社会報五号による)

終戦後いち早く化学肥料業界や繊維業界の復活によって、硫酸需要が急増し、硫酸単一の経営から硫化鉱販売の二本立ての生産体制を確立した。それまでは、選鉱場でふるい落とされた粉鉱石(硫酸製造の焼取窯では使えない)は、捨てられていたが、新に硫酸の原料として使用されるように

しかし交通の便は悪く、バスもなく上山から製錬まで三時間の歩きだった。社宅は、ハーモニカ長屋、トイレも浴場も共同。重労働の割には給料は安かった。

硫酸の製品は、馬のそりで上山駅まで運ばれていた。索道や支柱の技術家だった鈴木嘉助さん(元山の鈴木喜助さんの父)は、



NPO法人 蔵王鉱山の歴史を語り継ぐ会
理事長 川口兼次

山神社祭案内通知一二七通。ご主人が他界された訃報が一件、体調不良で欠席が七件あった。蔵王鉱山歴史資料館の建設はおそかった、と痛感。

蔵王鉱山の歴史を語り継ぐ会
理事長 川口兼次